

科目区分	専門分野	授業科目	成人看護方法演習
講師名	畑中 美保	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位 (30時間のうちの20時間)	開講年次	2年次 第1学期
授業概要 * 講師からのメッセージ	急性期に必要な身体侵襲のプロセスを振り返りながら学んでいきます。解剖生理や手術侵襲だけでなく、退院に向けて生活支援の知識も必要となります。短い入院期間に必要な知識・技術を整理しながら学んでいきましょう。		
<p>目的:急性期・回復期・終末期にある患者の看護が展開できる</p> <p>目標: 1. 急性期にある患者の看護過程が展開できる 2. 回復期にある患者の看護過程が展開できる</p>			
回	授 業 内 容	授 業 方 法	
1	【急性回復:胃がん事例】 1. 情報収集	講義・演習	
2~4	2. 情報分析 1)術前の全身状態の把握と術後に起こりうる問題の予測 2)機能低下に伴う術後に起こりうる問題の予測 3)術後侵襲・全身麻酔の影響 4)危機理論、ストレスコーピング理論の活用の視点	講義 グループワーク	
5	3. 看護問題の抽出 1)全身麻酔の合併症 2)術後の苦痛	講義 グループワーク	
6~8	4. 術後の機能障害と生活への影響(講義・演習) 1)教員によるモデル人形を使用したデモンストレーション 2)術直後の全身状態の観察 3)創傷管理(創部の観察、アセスメント) 5. 看護計画の立案(講義・演習) 1)術後合併症の早期発見 2)術後合併症の予防 3)術後の苦痛緩和 4)術後機能障害 5)退院に向けた生活指導	講義・演習	
9~10	6. 看護計画の立案(講義・演習)(非効果的自己健康管理) (栄養指導:ダンピング症候群予防など)	講義・演習	
評価方法	課題およびレポート(60点) 評価基準参照		
テキスト	1. 医学書院:系統看護学講座 臨床看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 2. 医学書院:系統看護学講座 臨床看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 3. 医学書院:系統看護学講座 専門分野 成人看護学[5] 消化器 4. 医学書院:NANDA-I 看護診断定義と分類		
備考 参考図書	1. 医歯薬出版株式会社:高齢者と成人の周手術期看護 外来/病棟における術前看護 2. 医歯薬出版株式会社:高齢者と成人の周手術期看護:術中/術後の生体反応と急性器看護 3. 医歯薬出版株式会社:高齢者と成人の周手術期看護:回復期/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護 4. 学研:よくわかる周手術期看護 5. 学研:疾患別看護過程の展開		
備考			

科目区分	専門分野	授業科目	成人看護方法演習
講師名	尾川 ひとみ	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位 (30時間のうちの10時間)	開講年次	2年次 第1学期
授業概要 *講師からのメッセージ	終末期の看護過程を学びます。成人期の発達課題には様々なものがあります。そのような発達段階にある患者が疾患により死を迎える過程で、どのような看護が必要なのかを学びます。また、患者本人だけではなく、看護の対象には家族も含まれます。家族へはどのような看護があるのか一緒に考えていきましょう。		
目的:急性期・回復期・終末期にある患者の看護が展開できる 目標:終末期にある患者の看護過程が展開できる			
回	授 業 内 容	授 業 方 法	
1~2	【終末期:肝硬変・肝がん事例】 1. 情報収集 2. 情報分析 1)苦痛(悪心嘔吐、疼痛、搔痒感、腹部膨満感、便秘、倦怠感、食欲不振)と日常生活への影響 2)治療による影響 3)死の受容プロセス 4)患者・家族のニーズや生活(社会生活も含む)への影響	講義・演習	
3	3. 看護問題の抽出 1)患者・家族の看護上の問題の把握	講義 グループワーク	
4~5	4. 看護計画の立案 1)状態把握のための観察 2)症状マネジメント(がん性疼痛、黄疸、腹水、浮腫、肝性昏睡、肝腎症候群 消耗性疲労、全人的苦痛、便秘など) 3)日常生活の支援 4)患者・家族の予期悲嘆と援助(グリーフケアを含む)	講義・演習	
評価方法	課題およびレポート(40点) 評価基準参照		
テキスト	1. 医学書院:系統看護学講座 専門分野 成人看護学[5]消化器 2. 医学書院:別巻 緩和ケア 3. 医学書院:NANDA-I 看護診断定義と分類		
参考図書	学研:疾患別看護過程の展開		
備考	病態治療学Ⅰ、成人看護援助論Ⅰで学んだ内容と関連あり		